

上限金利規制の引き下げが貸金市場に及ぼす影響について

佐賀大学 三好 祐輔

佐賀大学 都築 治彦

本稿の分析により、明らかになった点は、次の3点である。まず、貸金市場は借り手に関する情報の非対称性が著しく、貸し倒れリスクが高いため、こうした背景を反映した貸出しを業者は行っている。したがって、金利が高くなるにつれて貸金業者は貸出しを減らす傾向にある。すなわち、情報の非対称性が大きい場合は、まず貸出し金利の上昇により貸出し機会が削減される。すなわち、貸出し供給曲線は右下がりとなっており、貸金市場はワルラス不安定の状態にあるといえる。

さらに、現行の貸金市場においては、上限金利規制の水準で貸出しが行われており、供給曲線が右下がり、かつ超過需要が発生している。また、上限金利規制の引き下げに対する他の消費者金融業者の追随率は低く、金利引下げ規制の対象となっていないカード会社などは必ずしも貸出金利を引き下げているようには見えない。よって、2000年6月に施行された上限金利の引き下げの効果は、貸金市場にはそれほど影響を与えていないように思われる。供給曲線が右下がりかつ超過需要が発生している状況では、上限金利規制の水準が引き下げられ、市場均衡の金利水準に近づくほど、社会的余剰は増加することになる。